

5 地域公共交通の課題

地域特性、地域公共交通の現状及び各種調査結果から、美唄市における地域公共交通における課題は以下の通りです。

(1) 人口構造の変化

人口は経年的に減少しており、近年では平成 27 年から令和 3 年まで市街地及び郊外部においても人口が 1 割程度減少しています。

特に郊外部においては顕著に進む少子高齢化の影響により、これまで自家用車を使用してきた高齢者の方は、運転への不安から自動車運転免許証の自主返納が増加することが予想され、こういった方々への移動支援が今後ますます必要となることが考えられます。

また郊外部では、市民バス西線と一部地域を除く乗合タクシーにより、生活交通を確保してきましたが、今後は高齢者のための公共交通の支援として、郊外部全域においてデマンド交通の確保を検討することが必要です。

(2) 地域特性

稲作が営まれている田園地帯に JR 美唄駅を中心とした市街地が配置されており、現状においてもコンパクトな市街地形成がなされていますが、今後は立地適正化計画に基づき更なる効率的な市街地形成が計画的に推進されることが考えられます。

人口密度の高い市街地と郊外部の田園地域のそれぞれの移動シーンに合わせた質の高い公共交通の支援が求められます。

(3) 路線バスによる輸送の課題

① 市民バス東線

市民バス東線は美唄駅を中心とする循環路線により運行しています。右回り・左回りで一日 11 便の 6 系統を運行していますが、便ごとに系統が異なることから利用者にとっては複雑な運行形態であるといわざるを得ません。

年間輸送人員は近年 7 万人前後で横ばいに推移していますが、長期的には減少傾向となっており、特に令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け 55,811 人まで減少しています。

曜日別では平日では平均 232 人/日に対し、土曜日・日曜日は平均 145 人/日となっており、土日ダイヤの見直しが必要と考えられます。

時間帯別の利用者数では、午前 7 時～9 時に集中的に利用されており、午前中を始めとするピーク時に対応する必要があるものの、各停留所において乗降が分散する利用形態に対応した輸送方法の検討が必要です。

② 南美唄線

南美唄線は、中心部において市民バス東線と経路が一部重複しながら一日 15 便の 4 系統を運行しており、主に南美唄町の移動を支援するバス路線となっています。

年間輸送人員は年々減少しており、令和元年度からは 5 万人を下回る利用となっています。

市民バス東線及び南美唄線とも減少していることから、一体的な輸送など効率的な市街地公共交通の検討が必要と考えられます。

(4) 乗合タクシーの課題

乗合タクシーは方面別に株式会社ビジコー・美唄交通株式会社・昭和ハイヤー株式会社が輸送を担っているものの、高齢化に伴い運転手が不足する状況となっており、各社の状況を踏まえた輸送の在り方を検討する必要があります。

運転手不足が顕著に進むことに対して、光珠内・峰延・豊葦地区や落合地区においては公共交通ニーズがあるものの、公共交通空白地域が存在しているため、乗合タクシーと同等の輸送方法による運行区域の拡大・検討により、公共交通空白地域の解消が必要です。

(5) 公共交通の収支

美唄市の公共交通に係る収支は経常費用 189,047 千円に対し、経常収益が 25.7%に当たる 48,514 千円となっています。美唄市は全体の 14.2%にあたる 26.829 千円を負担して、地域公共交通を維持しており、効率的で効果的な地域公共交通の再構築によって、利用者の確保による収入の増加と運行経費の削減など、財政負担の健全化が求められます。

(6) 利用促進による利用者数の確保

利用者の減少や財政負担の拡大、高齢社会の進行を踏まえて、今後の地域公共交通の維持のためには利用者の確保を進める必要があります。

(7) 市民アンケート結果

市民アンケート結果では、市街地において運転が困難になった場合にバス利用よりもタクシー利用を希望する割合が高くなっています。

また郊外部では乗合タクシーの利用意向が比較的高く、郊外部の輸送支援の方向性として乗合タクシーが考えられます。

